

ビワ生育情報

千葉県
平成29年2月号

平成29年1月の気象

平成29年1月の半旬別気象は表1に示した。平均気温は第1及び第6半旬を除く4半旬で平年を下回った。月平均気温は6.1℃で、平年より0.1℃高く、前年より0.5℃低かった。また、第2～第6半旬では氷点下を記録し、氷点下日数の月合計は10日で、平年並み、前年より2日多かった。

最低極温は第1半旬を除く5半旬で平年を下回った。暖地園芸研究所では幼果が寒害を受ける-3.0℃以下となったのは1日で、1月15日に-3.4℃を記録した。

降水量は第2半旬を除く5半旬で平年より少なく、第1及び第5半旬では降雨がなかった。月合計は66mmで、平年の74%、前年の114%であった。

日照時間は第2半旬を除く5半旬で平年並みか上回った。月合計は206時間で、平年の121%、前年の146%であった。

表1 平成29年1月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	気温(℃)			氷点下日数(日)			最低極温(℃)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	7.8	6.8	10.1	0	1.3	0	2.2	-0.3	1.1
2	5.5	6.3	8.4	2	1.6	0	-1.6	-0.9	1.7
3	4.9	5.8	6.4	2	1.5	2	-3.4	-0.8	-1.6
4	4.8	5.9	5.4	1	1.7	1	-2.3	-1.1	-0.2
5	4.4	5.7	4.0	3	1.7	3	-2.9	-1.5	-3.9
6	8.9	5.8	5.3	1	2.2	2	-2.0	-1.9	-3.0
平均/計/最低値	6.1	6.0	6.6	10	10.0	8	-3.4	-3.0*	-3.9

※：1月の過去30年間の最低極温の平均

表1 (つづき)

半旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	0	9	0	42	28	25
2	57	20	0	26	28	25
3	1	15	1	30	27	21
4	3	10	21	26	26	19
5	0	18	0	40	27	28
6	6	16	36	42	34	23
合計	66	89	58	206	170	141

樹及び花房の発育

ビワの開花期は表2に示した。暖地園芸研究所の開花始期は、「楠」が11月4日で、平年より5日早く、前年より2日遅かった。「大房」が11月17日で、平年より9日早く、前年より3日遅かった。「田中」が11月7日で、平年より7日早く、前年より3日遅かった。

開花盛期は、「楠」が11月26日で、平年より2日早く、前年より7日遅かった。「大房」が12月13日で、平年より7日早く、前年より9日遅かった。「田中」が12月3日で、平年より3日早く、前年より13日遅かった。開花終期は、「楠」が12月19日で、平年より7日早く、前年より13日遅かった。「大房」が1月9日で、平年より20日早く、前年より20日遅かった。「田中」が12月27日で、平年より13日早く、前年より16日遅かった。

花房の出蕾が3品種共に平年よりやや早く、10～1月の気温がやや高かった影響で、3品種共に開花は平年より早く終了し、肥大した幼果もみられる。ビワの耐寒性は花より幼果の方が低いため、1月中旬以降の寒波によって寒害を被ったと考えられる。樹体及び花房の生育はおおむね良好である。

表2 ビワの開花期（暖地園芸研究所）

品 種	開花始期(月.日)			開花盛期(月.日)			開花終期(月.日)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	11. 4	11. 9	11. 2	11.26	11.28	11.19	12.19	12.26	12. 6
大 房	11.17	11.26	11.14	12.13	12.20	12. 4	1. 9	1.29	12.20
田 中	11. 7	11.14	11. 4	12. 3	12. 6	11.20	12.27	1. 9	12.11

平年：1986年（昭和61年）～2015年（平成27年）の30年間の平均

3月の作業

ビワは厳寒期を過ぎて春が近づくと、枝葉の伸長が始まり、果実の肥大が急速に進む。しかし、春先は夜間に冷え込むことがあり、3月中旬頃までは寒波の襲来に注意する。3月になると台木の芽が動き始めるので、接ぎ木は3月中に行う。また、摘果や袋かけは寒波の襲来がなくなった頃から始める。

摘果・袋かけ

摘果・袋かけの作業は、3月以降、寒波の襲来がなくなる頃を見計らって、寒害を受けにくい園から始める。1月中旬以降の寒波によって寒害を受けた可能性がある。

標準的な着果程度は1果当たり20枚の葉が必要である。摘房が十分でない樹は最終的な着花房率が60%になるように摘房する。着果房数が多い樹では1果房に1～2果残し、着果房数が少ない樹では収量を確保するために3果以上着生させる。3果以上着生させると、葉枚数が適正でも果実が小さくなることがあるので、着果房数が特に少ない場合や個数を重視するときのみ着生させるようにする。

接ぎ木

接ぎ木の適期は、台木の芽が動き始める2月下旬～3月中旬であり、天気安定した時期を選んで行う。気温の低い日に作業すると、接木した苗の活着率が低下する。4月に入ると切り口から樹液の溢出が多くなり、接ぎにくくなるので、3月中に終わらせる。台木は接木部の直径が1.5cm以上のものを用いる。太いものほど活着後の生育は良いが、あまり太いものは取り扱いに不便である。

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>